

JST理事長定例記者説明会

Gender Summit 10 (GS10)

2017年2月22日

科学技術振興機構 理事長

濱口 道成



科学技術振興機構

Gender Summit について (1)

2011年発足



Science

Gender

欧州委員会が中心となり発足
欧州・米国に次いで、アフリカ、
アジアへと世界展開中



男女の差を重要な要因と捉え
研究とイノベーションの質の
向上を目指す

Gender Summit



行動

問題
解決

GS 開催実績及び予定



男女共同で研究することにより男女差考慮した研究が拡大

男女の性差を考慮して研究開発を進めることにより、全ての人に適した真のイノベーションを創出することが可能になる (Gender Innovation by Londa Schiebinger)

創薬の研究開発

多く実験でオスの動物を使用
⇒ 女性には効果の低い薬が開発されることがある

幹細胞臓器移植の適合性

臓器移植に男女考慮なし
⇒ 幹細胞に男女差あり、移植も女性同士、男性同士の移植が望ましい

シートベルト設計

男性の体型を前提に開発
⇒ 交通事故において女性の方が重篤な負傷を負う率が高い

骨粗鬆症の診断方法

女性を対象として診断法が確立
⇒ 骨粗鬆症と診断されない男性患者が多く存在

機械翻訳プログラム

人の標準を男性に設定
⇒ 女性の名前も「彼」と翻訳されることが多く「彼女」と出ること少ない

大腸内視鏡検査の確立

男性の体を対象にして設計
⇒ 女性の大腸癌を見落とす事例が多い

GS10の開催概要



日程： 2017年（平成29年）5月25日（木）、26日（金）

会場： 一橋講堂（千代田区一ツ橋2-1-2）

テーマ： ジェンダーとダイバーシティ推進を通じた科学とイノベーションの向上

目指すところ： ジェンダー視点の有無は、科学技術だけでなく、政治や経済、社会や文化等あらゆる局面でダイバーシティを左右し、その先に生まれるイノベーションの質を大きく変える。それを科学的かつ実証的、かつ具体的に議論しながら、現代世界に果たす科学技術の役割と責任を再検証し、日本を含むアジア全体の提言としてまとめ、広く世界に発信する。

主要（フレナリー）セッションテーマ ※使用言語：英語（日英同時通訳有）

1. ジェンダーの歴史と未来
2. アジアにおける深刻な問題への女性の貢献
3. ジェンダーに基づくイノベーション
4. 科学技術の社会的責任

サブセッションテーマ（ワーキンググループで活動中） ※使用言語：英語

1. 中等教育における女子学生の文理選択の健全化
2. 女性参画拡大により期待されるイノベーション上の利点の明確化
3. ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示
4. スポーツにおける身体とジェンダー・サイエンスの推進
5. 男女共同参画推進のための研究者情報の整備と活用
6. 男性・男子にとってのジェンダー平等

1. ジェンダーの歴史と未来

視覚障がいを活かしながら革新的な科学技術の開発を行い世界を変えてきた事例の講演

浅川智恵子 (IBMフェロー) 氏



2. アジアにおける深刻な問題への女性の貢献

新興国が直面する貧困、飢餓等の深刻な課題に取り組む女性研究者/技術者からご自身の活動内容の講演

阿部玲子 (オリエンタルコンサルタンツグローバル) 氏

⇒ 土木工学の研究者・技術者、土木現場の総監督



阿部玲子

Daw-Than New (ヤンゴン大学) 氏

⇒ 人権、環境に係る法律の専門家



Seng Mom

Seng Mom (カンボジア王立農科大学) 氏 ⇒ 貧困に挑戦する農学研究者

GS10 の実施体制



Gender Summit 10 の主催・後援

主催



(欧州委員会の委託を受けたNPO)

後援

(国内)

文部科学省 内閣府男女共同参画局 経済産業省 厚生労働省(申請中)
外務省(予定) 総務省(申請中) 国土交通省(申請中) 農林水産省 環境省(予定)
経済同友会 日本経済団体連合会 日本ユネスコ国内委員会
国連ウィメン日本協会 国立大学協会 公立大学協会 日本私立大学団体連合会
全国知事会 男女共同参画学協会連絡会 東京都教育委員会(申請中)

(海外)

欧州委員会

GS10 の協賛機関



パートナー



協賛 / 協力



(パール) 中央大学 法政大学 神戸大学 熊本大学 名古屋大学 奈良先端科学技術大学院大学 奈良女子大学
静岡大学 大阪大学 お茶の水女子大学 東京大学 東京工業大学 東京農工大学
東京理科大学 津田塾大学 山形大学 山梨大学 横浜国立大学 早稲田大学
日本農芸化学会 日本MOT振興協会女性の活躍舞台づくり委員会 日物応物男女共同参画連絡会
理化学研究所 日本化学会 日本生態学会 日本工学アカデミー 日本魚類学会
日本植物生理学会 日本数学会 化学工学会 生物化学学会連合 国立高等専門学校機構
カネカ 鹿島建設 日本生命 パナソニック 資生堂 ソーラボジャパン 内田洋行 LIXIL

(背景)

イノベーションを創出するためには、研究開発にジェンダーの視点とダイバーシティを取り入れることが必須である。

ジェンダーサミットの日本開催により・・・

- 研究とイノベーションの質の向上のための多様な議論の場を提供
- 実際の行動に向け、企業関係者や政策決定者も多数参加
- 日本の研究者と世界の研究者とのネットワーク作りの場を提供
- 研究開発におけるジェンダーの視点の重要性や効果を世界に広く発信
- 国際連合のSDGsへの提言

JSTのミッションであるイノベーションの創出に資する